

公開情報 2018年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

【図表】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

【解説】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数

2018年 年報（2018年1月～12月）では111医療機関からデータの提出があった。総入院患児数26,689人中、937人（3.5%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では1,215人中372人（30.6%）、1000g～1499gの児では1,664人中101人（6.1%）、1500g以上の児では23,810人中464人（1.9%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児937人の感染症原因菌は、MRSA 136例（14.5%）、CNS 104例（11.1%）、MSSA 88例（9.4%）とブドウ球菌属が全体の約3割5分を占めた。次いで、カンジダ 35例（3.7%）、緑膿菌 26例（2.8%）と続いた。また、その他の菌種の報告は290例（30.9%）、菌不明は258例（27.5%）であった。

公開情報 2018年1月～12月 年報

院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 937 人の感染症分類は、敗血症 330 例（35.2%）と肺炎 222 例（23.7%）が全体の約 6 割を占め、皮膚炎 60 例（6.4%）、腸炎 53 例（5.7%）、髄膜炎 25 例（2.7%）と続いた。また、その他の感染症の報告は 247 例（26.4%）であった。

2018 年のデータが未提出の 6 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、集計から除外した施設はなかった。

疑義データの条件

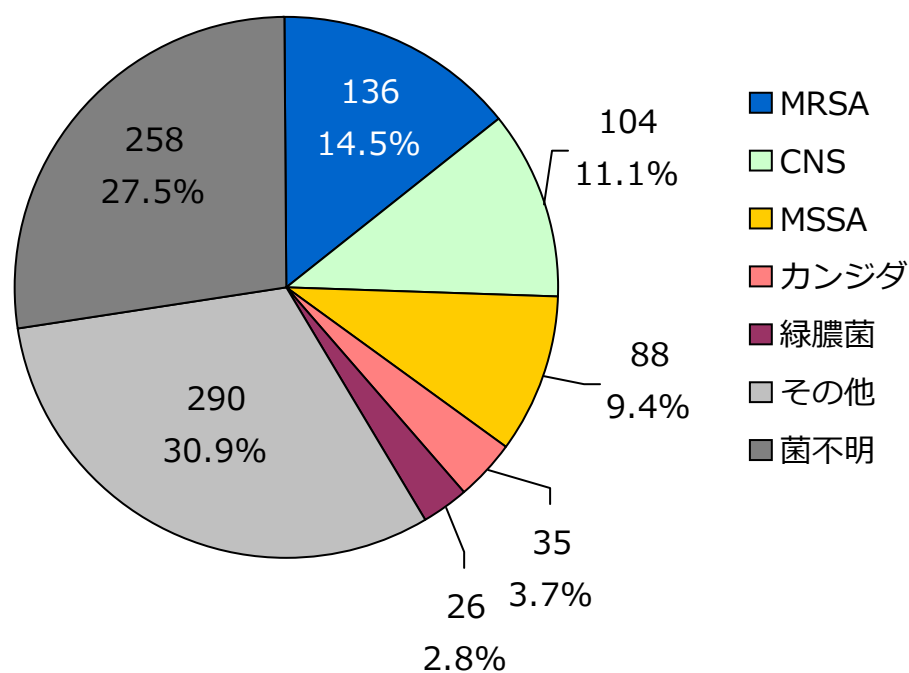
- 菌種別および感染症別の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	1,215	372	30.6%
1,000～1,499g	1,664	101	6.1%
1,500g～	23,810	464	1.9%
合計	26,689	937	3.5%

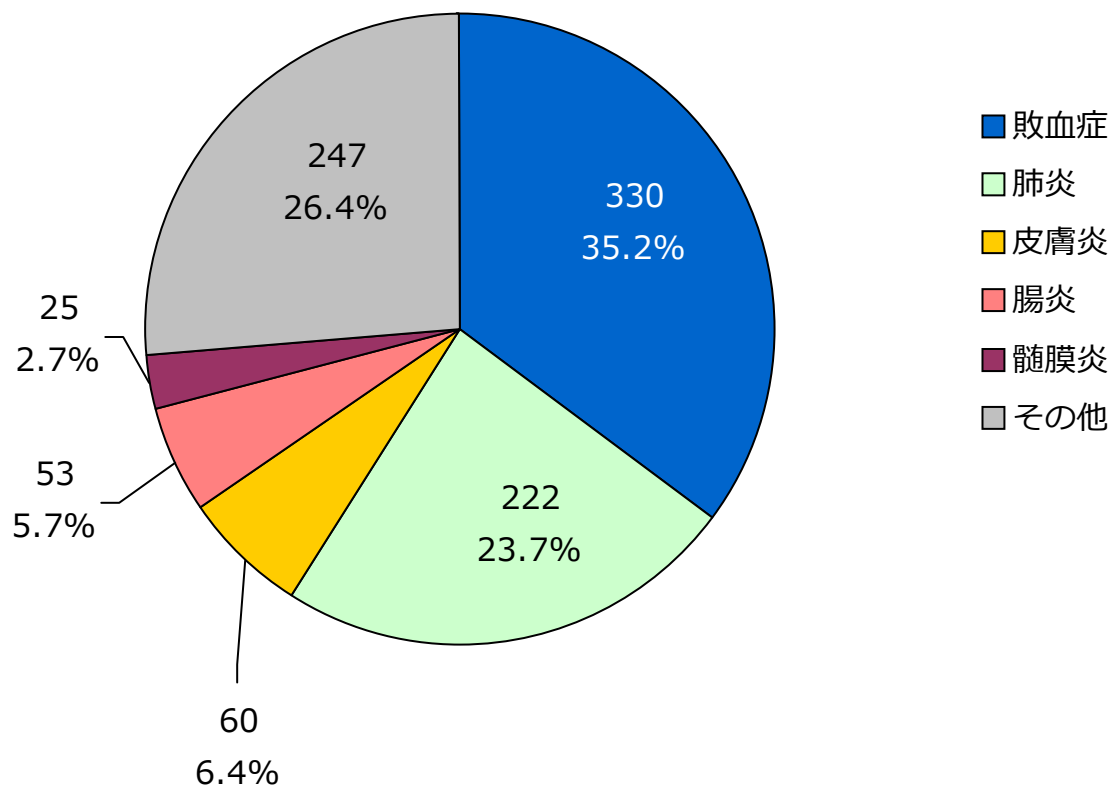
(集計対象医療機関数：111)

2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 937)



(集計対象医療機関数：111)

3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 937)



(集計対象医療機関数：111)